

倉吉市民シンポジウム「倉吉市立小・中学校の適正配置等について」の概要

倉吉市教育委員会

「倉吉市100年の大計」である「倉吉市立小・中学校の適正配置」について、先進教育委員会の前教育長の講演を聞いた後、PTA代表、地域代表等が、それぞれの立場から倉吉市の学校がどうあるべきかを議論し、適正配置等について市民が考えを深めていくために、倉吉市民シンポジウムを開催しました。



先進事例に学びながら、適正規模についての考え方や学校と地域との関係について等、活発な議論が行われました。

1 日 時 平成26年11月22日（土）午後7時00分～8時40分

2 場 所 倉吉未来中心 小ホール

3 参加者 市民146人

コーディネーター 伊藤 哲雄 （倉吉市前教育委員長）

シンポジスト 永田 武 （琴浦町教育委員会前教育長）

荒瀧美由紀 （倉吉市小学校PTA連合会会長）

徳吉 雅人 （倉吉市明倫地区公民館長）

松井かおり （社小学校PTA会長）

森本 紀紘 （上小鴨地区小学校再編問題協議会長）

杉山 博務 （関金地区自治公民館協議会長）

4 概 要

(1) 開会あいさつ 福井伸一郎倉吉市教育委員会教育長

(2) 説明 山根操倉吉市教育委員会学校教育課長

・学校適正配置の現状

(3) 講演 「琴浦町の学校統合の取り組み」

講師 永田 武 氏 （琴浦町教育委員会前教育長）

（パワーポイントによる講演）

① 現在に至るまでの流れ

■琴浦町の小学校の現状

■統合までの流れ

② 学校統合の背景と基本的な考え方は

■統合への背景（少子化の進行、懸念される教育課題）

- 琴浦町の人口推移と各小学校の児童数の推移
 - 学校規模から考えられるメリット・デメリット
 - 望ましい学級規模とは
 - めざす学校像
 - 統合にあたって
- ③ 学校統合に向けた様々な課題の解決は
- 学校統合に向けての様々な思い
 - 統合に向けての様々な検討課題
 - 具体的な活動（組織図、協議事項、留意事項）
- 「統合してよかったと思われる学校づくりを」
- ④ 学校統合して半年、新しい学校の今は
- 統合した学校として
 - 学校の活動風景
 - 統合して半年、児童・保護者・地域の声は

(4) シンポジウム概要

【コーディネーター】自己紹介を兼ねて適正配置についての意見をいただきたい。

【シンポジスト】倉吉市小学校PTA連合会長。5ブロックごとの市教委との意見交換会になるべく参加し様々な意見を聞いた。優先順位をつけて焦点をあわせて議論をしていくことが必要である。優先順位の一つは子ども達のためにである。

【シンポジスト】明倫地区公民館長。地域に学校がなくなるのはつらいと言っているだけではダメ。今は地域・学校・家庭が役割を見つめ直す時期。適正配置は子どもの立場・目線で考えるべき。倉吉の子ども達が競争に勝てるように切磋琢磨していくことが大切である。そのためにはある程度の適正化は必要である。

【シンポジスト】社小学校PTA会長。適正配置は子ども達の将来を第一に考えていきたい。多くの人の意見を聞き、慎重に丁寧に話し合いをしていかねばならない。

【シンポジスト】上小鴨地区小学校再編問題協議会長。学校再編をしても財政的なメリットはあまりないと市長も教育長も語っていた。これを市民にしっかりと示してほしい。今回の再編の目的は、教育行政の効率化が背景にあるのではないか。

【シンポジスト】関金地区自治公民館協議会長。学校は地域の拠点。なくなることは地域にとって大問題である。統合をするのであれば、地域との意見交換をしっかりと不安を取り除いてほしい。

【コーディネーター】様々な困難を乗り越えてきたと思うが、私たちの参考になる点を教えていただきたい。

【シンポジスト】学校統合の問題には、学校のことだけでなく地域づくりのこともある。最初は厳しい意見もいただいた。本町で統合に対しての合意形成ができるまでの流

れを紹介したい。説明会が始まると同時に、町PTA連合会で自主的にアンケートをとった。PTAで集約・分析をし、参考資料として各学校に配布した。統合問題に対して危機感をもって取り組むきっかけになった。その後、どの学校も自主的に、地域の問題と子ども達のありようをあわせ考えながら何度も私的に協議を重ねていった。また、PTA会長会の意見交換会は、お互いの課題や悩みを共有でき、各学校の足並みを揃えた町としての動きになった。そして、H24.7.4統合準備委員会を立ち上げる意向をPTAから確認した。その後、地域にも理解をいただいた。乗り越えることができたのはPTAのおかげである。

【コーディネーター】大変参考になる意見であった。全体的には統合に前向きな意見が多いように感じるが、森本さんからの発言をお願いしたい。

【シンポジスト】上小鴨小学校や保育園の保護者に対して、10月にアンケートをとった結果、83%が残してほしいということだった。適正規模について、倉吉市は1クラス20人、全体で120人以下が統合の対象としている。しかし国の立場では、適正化はあくまでも予算補助のためのものである。初等教育はできるだけ少人数が良い。WHOでは生徒100人を超えない学校規模が望ましいとしている。1クラス16～17人。教育の現場で一番大事なものは、先生と児童とのコミュニケーションである。大規模校だと難しい。小学校の条件として、①少人数でみんなが互いに知り合える②誰もが歩いて楽に通える③地域の人々に親しまれ愛されることが大変重要である。上小鴨小はむしろ理想的である。小鴨小と統合すると500人を超える。今回の統合問題では大規模校の弊害が語られていない。また、切磋琢磨は中学校からで十分であり、小学校ではのびのびとさせることが大切である。小学校・保育園のないところに人は集まってこない。地域創生に逆行している。市がいかにして地域を活性化させるかを考えてほしい。

【シンポジスト】学校がなくなるから地域が衰退するのではない。隠岐の島の海士町は離島でも待機児童がいる。福井県の熊川宿では、地域が若い人達を入れることに頑張り、全校児童が10人だったのが来年の新生が10人にもなった。地域が頑張らなければ子ども達も増えない。

【シンポジスト】5ブロックの話し合いに参加したが、それぞれに違いがある。上小鴨は強い思いがあると感じている。河北中校区では、大規模校の方にも目を向けてほしいという意見が出た。統廃合に関わらず、今が倉吉市の教育を考えていく時期である。

【シンポジスト】第4ブロックでは子どもの将来を中心に話し合いをした。灘手小は単独存続を望まれた。高城・北谷・社小の保護者として、長い目で見れば3～4校での統合をした方がよいのではないかと考える。みんなが自分達の手で、新しい学校を創るという希望の持てるような話し合いをしていきたい。

【シンポジスト】関金・山守の適正配置を考える会を今年3回開催した。山守小からは、子どもの声が聞こえなくなるのは寂しい、目の前に学校があるのになぜ遠いところに行くのかという意見はある。昨年の11月に関金保育園は統合している。保育園で一緒になって小学校で分かれる現実がある。子ども達は楽しくやっており、同じ小学校に行きたいと思っていると保育園の先生から聞いている。統合はやむを得ないという意見が多い。

○会場からの意見

【市民】個人的見解だが統廃合はすべきではない。20年間で6800校がなくなっている。日本の45%の学校が統合しなければならない人数である。統廃合が行われた中で、地域の過疎化が明るみになっている。1回学校がなくなった地域は75%が過疎化。学校がなくなると地域が衰退する。統廃合が正しい選択なのか疑問である。

【市民】永田さんに聞きたい。琴浦町では、子ども達の意見を直接聞いて反映させたのか。それが倉吉市に必要かどうか。また、全市民・全保護者に意見を聞くことが必要か。

【市民】上小鴨地区では協議会を立ち上げ、様々な会で議論をしてきた。小学校は子ども中心に考えるべきである。小規模校のメリット・デメリットが同じくらいあるならば、あとは小学校が地域とどれだけつながりがあるかという点を見るべきである。小学校は唯一の避難場所であり、運動・文化の拠点である。それがなくなるのは考えられない。市は地域学校委員会を推進しており、地域の子どもを育てようとしている。再編問題は、全市一斉にではなく地域で判断させてほしい。行政手続法では、行政は各地域の理解と協力を得て進めるとしてある。

【市民】まとめるのに時期尚早。大規模校でも小規模校でも、等しく同じような教育を受けさせてやるというのが義務教育ではないか。そこから考えてほしい。市は子育て教育を推進してほしい。どういう子どもを育てたいかの議論を深めたい。

【市民】適正配置の進め方に疑問を感じている。20人が議論のテーマとなっているが、小規模校のデメリットの克服法だけでなく、いいところの適正配置を考えてほしい。市に大規模校も小規模校もあってもいいではないか。少人数特認校を創って、校区を柔軟にするなど多様性のある教育を追求してほしい。他校区の子が灘手に来たり、灘手の子が他校区に行ったりしてもよいではないか。統合しないで頑張っている地域についてのシンポジウムも開いてほしい。

【シンポジスト】本町では、PTAの方で全保護者にアンケートをとり、賛成反対だけでなく思いも含めて集約してくれた。その資料をいただき、思いをくみながら施策に活かしてきた。いろんな集約の仕方があってもよいのではないか。子どもの意見をということだが、大人でも難しい問題を子どもが判断できるのか。親が気持ちを代

弁すればいい。本町では聞いてない。

【シンポジスト】統合をやるなら同時期が理想ではある。早いところと遅いところで不公平感があってはならない。

【シンポジスト】農業サイドから見ても再編は非常に大きな問題である。鳥取市は急いで統合しない方針で特認校制度も設けている。本市もいろんな事例を見ながら地域の同意を得ながら進めてほしい。

【シンポジスト】適正配置は、140年以上の伝統や地域住民の愛着を思うと、かなりの痛みを伴う取り組みになる。将来の子ども達のために視点を置き大いに話し合い、未来の子ども達に胸を張れる取り組みにしたい。

【シンポジスト】上小鴨・灘手地域はすごくまとまっていると感じた。educationの語源は引き出し。子ども達にどれだけ引き出しを増やしてやるか。そのために、地域・家庭・学校がそれぞれの役割をしっかりと持つことが大切である。仲の悪い成徳・明倫だが、今手を繋がなければならないと考えている。

【シンポジスト】倉吉市全体の教育環境をどうすべきかという大きな視点で物事を考えていきたい。連合としてPTAとして、何ができるのかを改めて考えなくてはいけないと思った。

【シンポジスト】本町においても、学校がなくなる地域では様々な会を立ち上げながら、地域をどう活性化していくのかという動きが出ている。保護者会では旧小学校区で子ども会を一つにして組織を立ち上げた。公民館でも子ども達を育てていく動きもある。学校では、よけいに地域を大事にした取り組みに、非常に意識を注いでいる。こういう取り組みが、やがてはおらが村の学校という意識につながっていく。

【コーディネーター】時間が短くて申し訳なかった。人口減少社会の中で私達はどうか考えていくのか。シンポジストは概ね、もう少し話し合いをして進めていこうではないかと考えていると感じた。フローからは「上小鴨は絶対に反対だ」と意見もあったが、全体としては、話し合いをしながら進めていこうではないかと感じた。各地区やPTAで話し合いを進めていくことが大事である。市教委にはこれから、どの時期で判断して議会に出し条例を作っていくのかという、今後のスケジュールを出してもらいたいと思う。いろんな意見を聞いた上で、みんなで考えていけたらと思う。